

# ほんの たね ~装丁~

☐司書が心に残っている本をご紹介します。☐

本を手にとるとき、何をきっかけにしていますか？  
タイトルや著者で選んでいたたり、賞を獲った作品が気になってみたり。読書の動機は各々ありますよね。わたしの読書の入り口は専ら「装丁」にあります。装丁とは、本を綴じて表紙等をつける作業や、表紙を始めとする本の外側のデザインを指す言葉です。

表紙を見て気になったものに、あらすじや内容を加味して手に取っています。表紙はその本の趣をよく表しているため、案外自分の好みの本を見つけるきっかけに成り得るのです。

印象に残っている装丁の本を少しだけ紹介します。  
東直子著『階段にパレット』の表紙は、水色の背景に力強く鼻から水飛沫をあげるゾウの絵が印象的です。全体的に絵具のようなタッチで、ゾウの周り草木や生き物たちが奔放に描かれています。色味は青系に統一されていますが、よく見ると様々な色がちりばめられており、なんだか元気になれるデザインです。

大崎梢著『本バスめぐりん。』文庫版の表紙は、開いた本の上に木や草花が生い茂り、合間に伸びる道にバスが走っているデザインですが、それらが刺繍で表現されています。小説にしては珍しい、刺繍独特の温かみを感じられる表紙です。

表紙の絵や写真が素敵な本はたくさんありますが、綾崎隼著『それを世界と言うんだね』のハードカバー版は透明のカバーが掛けられた少し珍しい装丁です。本自体の表紙とカバーには同じ女の子が描かれていますが、これらが重なることによりアニメのセル画のようになっています。奥行きが生まれ、そして澄んだ雰囲気醸し出される、紙のカバーではなかなか表現できない透明カバーならではの味わいです。

上記の2,3冊目もそうですが、単行本と文庫本で装丁が異なるものも多くあります。それぞれの表紙がその本のどのような部分を表現しているのか考えてみるのも面白いかもしれません。

これを機に、装丁を足掛かりとして本を手に取り、素敵な本との出会いがあったら嬉しいです。(K)

## 装丁の素敵なおすすめ本

- 1) 『自分の機嫌は「色」でとる』 七江亜紀/著  
ディスカヴァー・トゥエンティワン (146 頁)
- 2) 『世界のティータイムの歴史』 ヘレン・サベリ/著  
村山美雪/訳 原書房 (383 頁)
- 3) 『バンクシー〜壁に隠れた男の正体〜』  
ウィル・エルスワース=ジョーンズ/著  
バルコエンタテインメント事業部 (723 頁)
- 4) 『中島みゆき詩集』 中島みゆき/著  
角川春樹事務所 (911.6 頁)

# 8月の行事

日	月	火	水	木	金	土	
		1	2	3	4	5	
		「ようかいたんていだん」 6日まで実施します					
6	7	8	9	10	11	12	
新刊 お話し会	休館						
13	14	15	16	17	18	19	
新刊 お話し会		赤ちやん お話し会					
20	21	22	23	24	25	26	
新刊 お話し会					休館		
27	28	29	30	31			
新刊 お話し会							

夏休み  
読書のひろば  
読み聞かせ会WEEK  
各日、サンシャインシティ 絵本のひろば (アールバード 噴水広場前広場)  
14時~15時  
8/2 水  
8/3 木  
8/4 金  
8/7 月  
8/8 火  
8/10 木  
おそびにきてね!

サンシャインシティでお話し会をします。巣鴨は、8月3日に登場します。

## 編集後記

今年の夏は、3年ぶりに復活する行事がいくつかあります。  
お時間があれば是非参加してください。  
♥ 図書館で楽しい夏の思い出を ♥  
(M)

# すがもらいぶらり

2023年8月5日 巣鴨図書館発行

8月になりました。今月も植物はすくすく成長しています。すがもがーでんの話ばかりで恐縮ですが、小玉スイカについて一言お礼を言わせてください。7月の中旬に小玉スイカにひびが入ったため、収穫することになりました。収穫したスイカは2日ほど展示していたのですがその際に「スイカ収穫したの?」「よく育ったね」など愛のあるコメントをたくさんいただき、こんなにも成長を見守ってくれていたのかと驚きと共にほっこりとした気持ちになりました。そういった一言が励みになります。ありがとうございます。  
さて、巣鴨図書館の夏の特集についてもご紹介します。児童向けには、こども夏フェスを開催しております。一般書では「怖い文庫本」をセレクトしました。本のタイトルや作者は伏せてあります。一文を見てビビッと来た本を是非選んでみてください。怖い本を読んで少しでも冷やりとした気分を味わってください。

(館長)



手作りしおりもついています。

最後はカービングして展示しました!



じぞうくんより...  
涼しい場所においても、熱中症になることがあるそうです。巣鴨図書館には1階に冷水器を設置しています。適度に水分補給をして快適に過ごしてくださいね。

## 食いしん坊司書の部屋



この春から  
巣鴨図書館の仲間  
になった司書  
Fさんから  
お話を聞きました。

「文学散歩」が趣味だというFさん。その魅力は作品に出てくる場所に実際に行くことで、作品の世界をより深く知ることができること、だそうです。一見、都市化が進み、古いものは残っていないと思われてしまう東京ですが、実は、原風景に近いものが残されていたり、作品が書かれた当時の雰囲気を感じることができるスポットがまだまだ残されていることを教えてくださいました。

お薦めスポットは、樋口一葉が暮らしていた路地のある文京区本郷の「菊坂」とのこと。この坂の丘を少し上った所には、カフェ併設の金魚問屋さんもありますね。酷暑の夏ですが、古き良き日本の夏の空気を味わってみてはいかがでしょうか？

でもやっぱり、夏は室内でという方には、駒場東大前駅にある「日本近代文学館」がお薦めとのこと。緑豊かな駒場公園内に建てられた文学館には、120万点もの貴重資料が所蔵されており、1階はブックカフェになっていて、文学作品にちなんだドリンクや料理を楽しむスポットになっているそうです。

つついエアコンの効いた室内で過ごしたくなってしまう夏ですが、おいしいご褒美つきの文学散歩、楽しんでください！

(M)

文学散歩には  
これを！

### おすすめの本

- 『東京文学散歩』  
神保町文学散歩倶楽部／著  
メイツ出版 (291.3 ト)
- 『東京の階段』 松本泰生／著  
日本文芸社 (291.3 マ)
- 『ブックカフェさんぽ』 グラフィス社  
(291.0 フ)
- 『いただきます 平成 食の物語』  
毎日新聞社会部／編 ブックマン社  
※駒込・池袋図書館にあります。
- 『歴メシ!』 遠藤雅司／著 昭文社  
※上池袋・池袋図書館にあります。

## じぞうさんぽ 【突撃！ 隣の図書館】



大塚公園の露壇（テラス）より広場を望む。  
『真夏の夜の夢』の公演ができそう



護国寺本堂



護国寺境内の『一言地藏尊』。  
一つだけ願を叶えて下さるそうです。  
探してみてください



大塚公園みどりの図書館



音羽富士塚の頂上



文豪小泉八雲と奥様のお墓  
(雑司ヶ谷霊園)

旅のお供に  
ふさわしい図書館

ともぼん

### お供本

- 『発掘写真で訪ねる文京区・豊島区古地図散歩』  
坂上正一／著 フォト・パブリッシング  
(213.6 サ)
- 『東京今昔街角散歩』  
井口悦男／監修 JTBパブリッシング  
(291.3 ト)
- 『JAL健康管理部本気の!ラジオ体操講座』  
日本航空株式会社／協力 KADOKAWA／編著  
KADOKAWA (781 シ)

### <大塚～音羽みどりめぐり>

今回訪れたのは、文京区立大塚公園みどりの図書室です。地下鉄丸ノ内線新大塚駅2番出口から徒歩2分。文京区立大塚公園に到着。広場の周囲に、噴水や四阿、文京区の土地柄である高低差を活かした庭園等を配した、緑豊かな公園です。実はここ、文京区ラジオ体操発祥の地だそうで、年中無休で毎朝ラジオ体操が行われています。この公園の片隅にある山小屋風の建物が、今回の目的地、大塚公園みどりの図書室です。一番の特徴は、公共施設とは思えないその外観。白い壁に茶のライン、前庭にはテーブルとベンチが点在し、もはや高原の別荘にしか見えません。この建物の1階が図書室、2階が集会所になっています。図書室なので、規模は小さいですが、図書・雑誌の他、CDも所蔵。利用登録や貸出・予約も図書館と同様に可能です。利用登録に居住地の制限はありませんが、文京区民と他区民では貸出・予約の冊数等、利用内容が異なりますので、ご利用の際はHP等でご確認下さい。

大塚公園を出て、春日通りを左へ。不忍通りとの交差点を右折し、富士見坂を降りると、10分ほどで護国寺に到着です。真言宗豊山派の大本山である護国寺は、天和元年（1681年）、五代将軍徳川綱吉の生母桂昌院の発願により建立されました。創建当時の建造物も多く、本堂は国の重要文化財です。まずは仁王門をくぐって境内へ。門から続く石畳の先に石段があり、その上に不老門が見えます。ここでちょっと寄り道。階段の手前、右手の足元に『音羽富士』という看板が出ているので、飛び石に沿って奥へ。木々に囲まれた石橋と鳥居の先に、ごんまりとした富士塚が現れます。富士塚は、お正月や山開きなど特別な時しか登れない所が多いのですが、ここは一年中登り放題です。下山後、不老門から本堂へ。お参り後は堂内を拝観します（本堂内の拝観は午後4時まで）。ご本尊の如意輪観世音菩薩は毎月18日の御開帳のみの公開のため拝ませないでしたが、脇には小さめの御像がぎっしり（普通の仏様の他、派手な色のインドの神様も）。向かって右側には不動明王、左側の小部屋には、『桂昌院乗用駕籠』などの寺のお宝を展示。手前の天井には龍と天女が舞い、木彫りの牡丹が咲き乱れ、巨大な絵馬が何枚も掛けられ、と、ほとんど美術館状態でした。

境内の他の堂宇やお地藏様を拝観し、本堂裏の墓地を通過して裏門を出ると、日出通りを渡った先が雑司ヶ谷霊園です。今回は、ジョン万次郎と夏目漱石、小泉八雲のお墓にお参りして、都電雑司ヶ谷駅前の出口から東通りを池袋駅まで歩きました。(A)